

人を 守る

地震を予測する研究は、年々進んでいます。が、それでも、10分先に地震が起こるかどうかわからず、今の技術では、予想することはできません。地震を予測することができない以上、地震が来る前に、その準備をするしかありません。

阪神・淡路大震災では、家具の転倒を直接の原因とする事故が多数報告されました。転倒対策などを行うことはもちろん、「地震が起こったら」という目線で、家の中を見回してみることも大切かもしれません。

また、地震が起こったときのことを家族で話し合っておくことが必要です。

地震が起こった場合にまず何をすべきか、避難場所はどこか、連絡方法をどうするかなど、できるだけ具体的に決めておくことが必要です。

なお、大規模災害時には、携帯電話はほとんどつながらないと考えておいた方がよいでしょう。

また、南島原消防署によると、身の安全などの一般的な事項のほか、「火を消すのは揺れが収まってから」「戸は開けておくこと」と指摘します。

揺れているときに火を消そうとするとやけどを招くことがあります。また、戸を開けておくことで、室内に閉じ込められることを防ぐのだそうです。

地震が起こってしまったら…

- 1 まずわが身の安全を図りましょう**
なによりも大切なのは命、地震が起きたら、まず第一に身の安全を確保しましょう。
- 2 すばやく火の始末。あわてず、さわがず冷静に！**
「火を消せ！」とみんなで声をかけ合い、調理器具や暖房器具などの火を確実に消しましょう。
- 3 非常脱出口を確認しましょう**
とくに鉄筋コンクリートの建物内にいるときは、閉めたままだと建物がゆがみ、出入口が開かなくなることがあります。
- 4 火が出たらまず消火をしましょう**
「火事だ！」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め初期消火に努めるようにしましょう。
- 5 外へ逃げるときはあわてずに！**
外に逃げるときは、瓦やガラスなどの落下物に注意し、落ち着いた行動をとりましょう。
- 6 狭い路地、堀ぎわ、がけや川べりに近寄らないようにしましょう**
ブロック塀、門柱、自動販売機などは倒れやすいので要注意です。
- 7 山崩れ、がけ崩れ、津波に注意しましょう**
山間部や海岸地帯で地震を感じたら、早めの避難態勢を試みましょう。
- 8 避難は徒歩で、荷物は最小限にしましょう**
指定された避難場所に徒歩で避難を。車は使わないようにしましょう。
- 9 みんなが協力し合って応急救護に努めましょう**
お年寄りや身体の不自由な人、ケガ人などに声をかけ、みんなで助け合いましょう。
- 10 正しい情報をつかみ、余震を恐れないように！**
うわさやデマに振り回されないようにしましょう。テレビやラジオで正しい情報を得ましょう。

◆◆◆ 災害時の連絡方法を覚えておきましょう ◆◆◆

電話が混み合う災害時に、家族や支援者との安否確認に役立つのが、NTTの「災害用伝言ダイヤル」や携帯電話各社の「災害用伝言板」です。震度6以上の地震などの大規模災害に稼働します。

災害用伝言ダイヤル「171」の使い方 ※音声案内が流れるので、それに従って落ち着いて利用しましょう。

- 伝言の録音方法 **171** ▶ **1** ▶ **被災地の人の電話番号(市外局番から)** ▶ **伝言を吹き込む**
- 伝言の再生方法 **171** ▶ **2** ▶ **被災地の人の電話番号(市外局番から)** ▶ **伝言を聞く**

毎日1日、「災害用伝言ダイヤル171」サービスを体験できます。○1月1日は除きます。○実際に災害が発生した際には体験サービスの利用ができない場合があります。

地震が起こるその前に。

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋が狭い場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えをする。



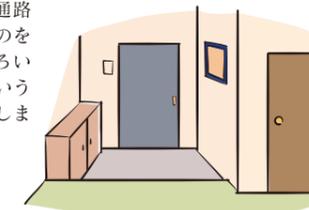
寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



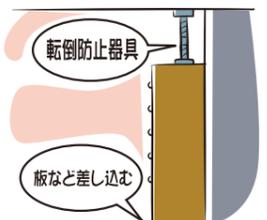
安全に避難できるように、出入口や通路にはものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



家具の転倒や落下を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱に寄りかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



家具の転倒・落下を防ぐポイント

- 食器棚** L字金具などで固定、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。扉が開かないように止め金金具をつける。
- 照明器具** チェーンと金具を使って数カ所止め。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。
- タンス・本棚** L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。
- ピアノ** 本体にナイロンロープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。
- 冷蔵庫** 2ドアの場合は、扉と扉の間に針金を巻いて、金具で壁に固定する。
- テレビ** できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。また、テレビの上には水槽や金魚鉢を置かない。